

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

一般社団法人 青少年ネット教育アカデミー

【サービス名称】

ネット支援プライマリープログラム
ネット依存トラブル対策プログラム

【サービスの支援項目】

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス
カテゴリ2-2 教職員の業務効率化・省力化 オプションサービス

2026年1月



情報モラル&デジタル・シティズンシップ教育

小学校向け

ネット支援プライマリープログラム

中学・高校向け

ネット依存トラブル
対策プログラム

YOUTH WEB EDUCATION ACADEMY



「情報モラル」分野での生徒指導を
年間サポートする！

「ネット支援プライマリープログラム」

1. サービスの概要、特徴

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

「ネット支援プライマリープログラム」は、ますます低年齢化するネット依存・ネットトラブルの対策として、独自に開発したホワイトボードアニメとワークシート、教師向けの授業手引き、授業で使える補助教材をセットにしたサービスです。本サービスは、教職員の負担を減らしつつ、ネットモラルに関する学びを「総合的な学習（探究）の時間」に組み込めるよう、授業の詳細な手引きや資料をセットにしています。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

【探究的な学びの高度化】子どもの興味を引くホワイトボードアニメと対応するワークシートに加え、授業ための手引きと補助教材をセットにしています。これによって目覚ましい進歩を遂げているネット社会にあって、必須ともいえるネットモラルに関する探究的な学習ができます。

【校務負担軽減】単なる教材ではなく、動画を見て思考して記入するという、自主的に学習できる構成になっています。さらに教師が授業を進めていくために必要な、詳細な手引きもセットにしているため、これだけで授業を全て行なうことが可能です。先生が自ら資料を探して授業の準備をする、といった時間を大幅に軽減できます。

(3) サービスの活用場面

「総合的な学習（探究）の時間」・HRなどで活用できます。インプットとして①アニメを視聴します。テーマは、SNS、ゲームトラブル、コンテンツに関する内容です。次に②ワークシートの質問を使ってディスカッションを行います。次いでアウトプットのために、ディスカッションの内容に基づき、③アイデアを形にしていきます。内容はポスターの作成、保護者・校内・地域向けの発表資料、半年後の自分に対する手紙などですが、テーマに応じて考えたことを具象化していきます。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

授業用パック 1,980円（税込）、【オプションサービス】ワークシート（印刷版・4冊セット）2,640円（税込）

※生徒一人あたり・1年間の費用です。（税込）

※利用料に初期設定は含まれません。

※利用料に通信費は含まれません。

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

学校で生じている問題や生徒の興味に合わせて、ふさわしいアニメの選択や授業の流れを一緒に考慮します。その後、具体的な授業プランを提案します。

「ネット依存トラブル対策プログラム」

1. サービスの概要、特徴

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

中学・高校でネット依存やSNSトラブルの対策のためのプログラムです。「ネット依存傾向解析テスト」を生徒と親が行うことにより、数値化とグラフ化された依存実態を、教師、生徒、親の三者が把握できます。このデータを活用することで、生徒個人と学校全体の問題点を把握し、指導の方向性を定め、適切なアドバイスが可能になります。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

本サービスには、講座、動画の提供等により、周期的な解決策の支援がなされます。
さらに負担軽減に貢献するメニューは、深刻な問題を持つ生徒を保護者立ち合いのもとで行われる「個人相談」のサービスです。
こうした教師と生徒に寄り添った本サポートは、校務負担の軽減に大いに貢献できると思います。

(3) サービスの活用場面

- ① 生徒と保護者が「ネット依存傾向解析テスト」を行います。二つのテスト結果を解析し、子どもが実際にどの分野でどれほどネットに依存しているかを解明します。
- ② 学校全体の依存傾向の特徴も分析し、その問題点について報告します。 ③ 生徒と保護者講座を開いて学校全体の傾向を発表し、対策や考え方を指導します。
- ④ 約40本各5分のテーマ別の講座を用意しているので、生じてくる問題に応じて適時選択してショートホームルーム等で自由に活用できます。
- ⑤ ネット依存が深刻な生徒やSNSでトラブルを起こす生徒に対して、保護者同伴のもとに、「ネット依存支援士®」の資格を持つ弊社のスタッフがアドバイスを与えます。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

- ① 生徒数300名以下 1,505円(税込)、 ② 生徒数301~500名以下 1,440円、 ③ 生徒数501~700名以下 1,400円、
 - ④ 生徒数701~900名以下 1,330円、 ⑤ 生徒数901名以上 1,295円
- ※生徒一人あたり・1年間の費用です。(税込)
※利用料に初期設定は含まれません。
※利用料に通信費は含まれません。

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

プログラムのメニューは学校の行事や生じている問題に合わせてアレンジします。要望があれば、その学校に特化した講義も行います。
ネットトラブルという、教師自身がこれまで経験してこなかった難題に立ち向かう点で日夜苦闘している教師たちは少なくありません。
この問題に立ち向かうには、どうしても専門的なサポートが必要です。このプログラムは、教師、子どもたち、そして保護者にとって最善の益をもたらすものと思います。

ネット依存やトラブルが低年齢化しており、小学生向けのプログラムはネットモラルについて具体的なアニメから学べます。

中学・高校では、多くの時間をネットに使い、SNSトラブルが深刻化しています。このプログラムから自分の依存度・傾向を知り、具体的な対策を学べます。

児童生徒・教職員が抱える課題

小学校

- ① 児童のネット利用に関するトラブルの増加
(ネット・ゲームの使い過ぎ、SNSによるいじめや出会い、ゲーム課金など)
- ② 情報モラル・リテラシー教育の教材の不足
- ③ 効果的な授業のための資料作りや準備の負担

中学・高校

- ① 生徒のインターネット利用に関するトラブルの増加
- ② 情報モラル・リテラシー教育の教材・カリキュラム不足
- ③ 効果的な授業のための資料作りや準備の負担
- ④ 教職員が専門知識を学び、実際的なアドバイスをする必要性

サービスが果たす役割

ネット支援プライマリープログラム

- ① SNS編、ゲーム編、コンテンツ編に分けたホワイトボードアニメにより、児童が陥りがちなトラブルにフォーカスして学べる
- ② 全40本の動画と、動画に対応したワークシートによる充実した教材の提供
- ③ 授業テンプレートと授業で活用できる補助教材をセットにし、事前の準備負担を軽減しつつ効果的な授業を行えるように工夫

ネット依存対策プログラム

- ① 「ネット依存傾向解析テスト」により、生徒自身の依存状況や依存傾向の高い生徒、さらに「親子の認識差」が数値化。これにより、主観に頼らない的確な注意喚起が可能。
- ② 50本用意された「5分ショート講座動画」が提供されることで、最新のネット環境に即した教育が可能。
- ③ 短時間の動画は、朝のSHRやLHRの冒頭、授業の隙間時間に取り入れやすく、授業時間を大幅に割くことなく継続的な指導が可能。
- ④ 専門家による解析結果の分析やアドバイスを受けることで、教員自身も「結果のどこに注目し、どう生徒に声をかけるべきか」という具体的な指導ノウハウを学べる。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

ネット支援プライマリープログラム（小学校向け）

① ホワイトボードアニメをみてワークシートを考える



課題：グループラインでの悪口、ネット・ゲームの使い過ぎによる睡眠不足等。
アニメ・ワークシート・授業プランを活用。「児童が実際に起きていた事象とマッチしていたので、考えやすかった。ワークショップ形式で行ったのもよかった」
(Y小学校)

② 日曜参観日で教材を活用した授業を行う



課題：ネット・ゲームの使い過ぎで学習時間が十分に確保できない。
日曜参観で教材を活用した授業を実施。「児童同士が話し合いながら自分事として考える様子が見られた」との観察が得られた。
(S小学校)

③ 「朝の活動」の時間に「情報モラル」を学ぶ



課題：ネット・ゲームの時間が長く、注意しても聞いてくれないと悩む保護者が多い。
朝の活動の時間に約5分のアニメから学ぶようになった。「今まで自分の行動を振り返り、今後どのように行動すると良いか考えられる児童が増えた」と改善が見られた。
(K小学校)

ネット依存対策プログラム（中学・高校向け）

① ネット依存傾向解析テストを実施



② 解析結果を報告



課題：生徒のインターネット利用に関するトラブルの増加
「生徒に意識する機会を与えることができる。また、結果は細かく解析して頂き、警鐘を鳴らすきっかけ・話題作りになった
親子の認識誤差については、驚かれる親もいた」
(Y中学校)

③ 生徒・保護者講座を実施



課題：指導の準備や専門知識の必要性
「自分がどこから直していけばいいのか、具体的にお話いただき、カウンセリングの手法を用いたアドバイスが、とても良かったと思います」
(K高等学校)

④ 5分ショート動画を提供



課題：情報モラルの教材不足
「全校集会の講話などの話に役に立った。生活指導からの全体への話で役に立った」
(M中学校)

⑤ 個人相談に応じる



課題：生徒指導の効果性
「学校で抱えている心配点やリスクを家庭と共有することができる」
(K高等学校)

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	24	学校等教育機関数	28 校
--------	----	----------	------

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	伊江村教育委員会	伊江村立伊江中学校	沖縄県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
2	川西市教育委員会	川西市立明峰中学校	兵庫県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
3	広島市教育委員会	広島市戸山小学校	広島県	小学校	4～6	授業・授業準備
4	学校法人芝浦工業大学	芝浦工業大学柏中学校	千葉県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
5	学校法人芝浦工業大学	芝浦工業大学柏高等学校	千葉県	高等学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
6	有田市教育委員会	有田市立有和中学校	和歌山県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
7	静岡市教育委員会	静岡市立賤機中学校	静岡県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
8	静岡市教育委員会	静岡市立清水桜が丘高等学校	静岡県	高等学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
9	静岡県教育委員会	静岡県立科学技術高等学校	静岡県	高等学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
10	川崎市教育委員会	川崎市立金程中学校	神奈川県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
11	国立大学法人大分大学	大分大学教育学部附属中学校	大分県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
12	学校法人千葉学園	千葉商科大学付属高等学校	千葉県	高等学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)

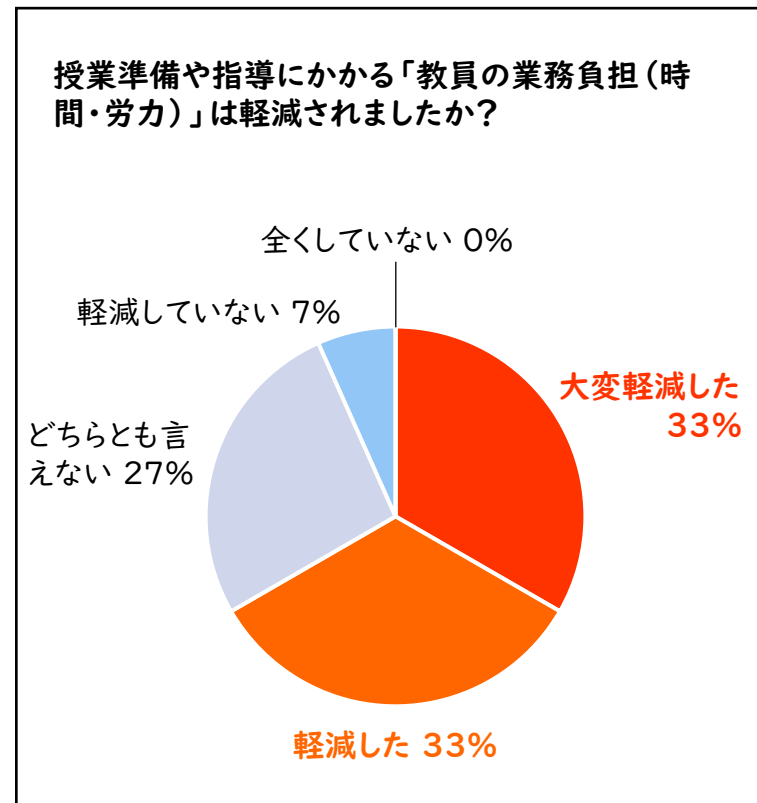
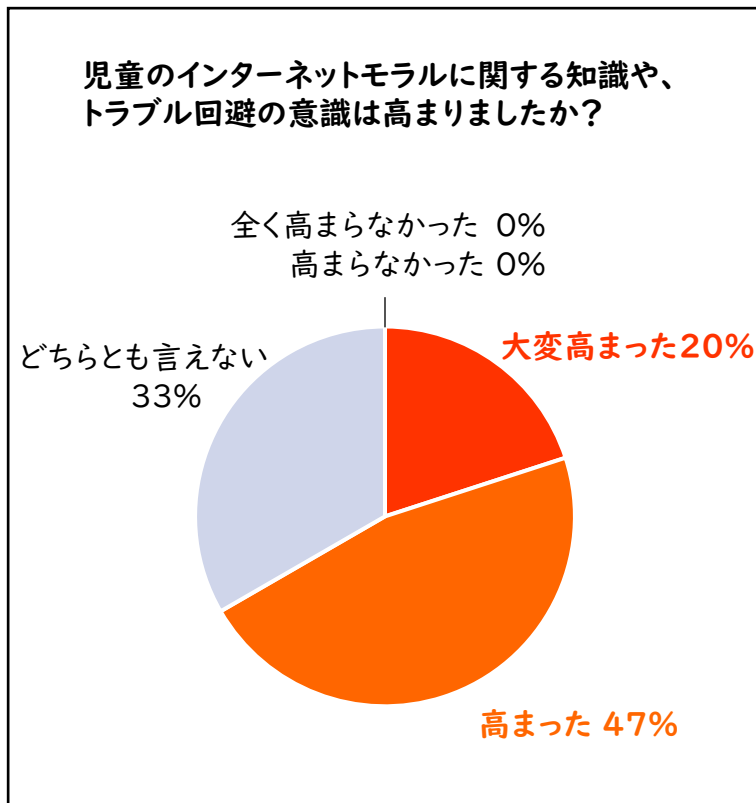
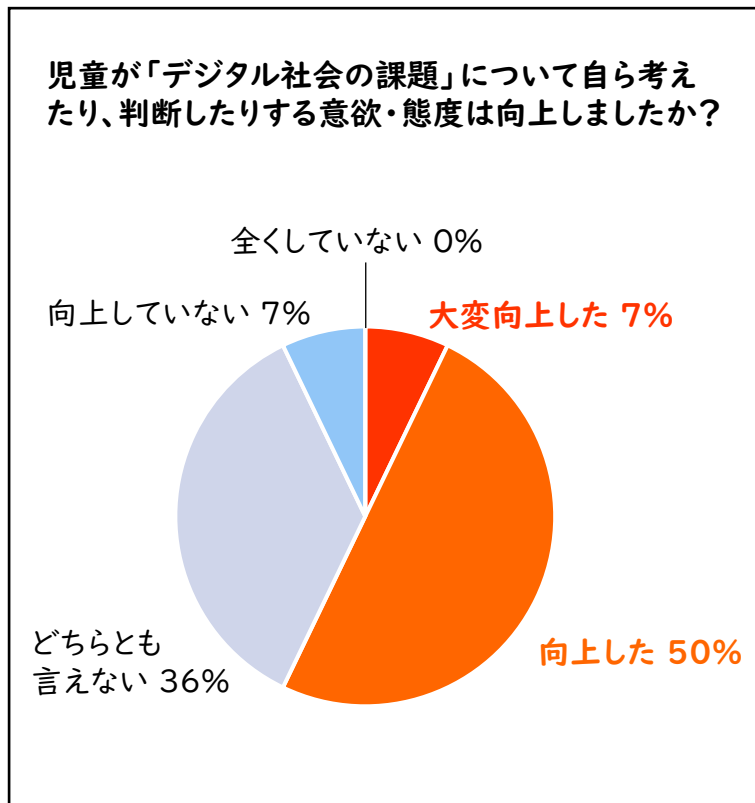
	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
13	猪名川町教育委員会	猪名川町立猪名川小学校	兵庫県	小学校	4～6	授業・授業準備
14	精華町教育委員会	精華町立精華台小学校	京都府	小学校	4～6	授業・授業準備
15	八街市教育委員会	八街市立八街東小学校	千葉県	小学校	4～6	授業・授業準備
16	出雲市教育委員会	出雲市立平田小学校	島根県	小学校	4～6	授業・授業準備
17	海津市教育委員会	海津市立海西小学校	岐阜県	小学校	4～6	授業・授業準備
18	船橋市教育委員会	船橋市立金杉台小学校	千葉県	小学校	4～6	授業・授業準備
19	石垣市教育委員会	石垣市立平真小学校	沖縄県	小学校	4～6	授業・授業準備
20	幌延町教育委員会	幌延町立幌延小学校	北海道	小学校	4～6	授業・授業準備
21	門真市教育委員会	門真市立門真小学校	大阪府	小学校	4～6	授業・授業準備
22	国立大学法人奈良国立大学機構	奈良女子大学附属小学校	奈良県	小学校	4～6	授業・授業準備
23	国立大学法人佐賀大学	佐賀大学教育学部附属小学校	佐賀県	小学校	4～6	授業・授業準備
24	取手市教育委員会	取手市立取手西小学校	茨城県	小学校	4～6	授業・授業準備
25	会津若松市教育委員会	会津若松市立第四中学校	福島県	中学校	1～3	生徒指導(集団)(個別)
26	町田市教育委員会	町田市立小山田南小学校	東京都	小学校	4～6	授業・授業準備
27	静岡市教育委員会	静岡市立蒲原東小学校	静岡県	小学校	4～6	授業・授業準備
28	静岡市教育委員会	静岡市立西奈南小学校	静岡県	小学校	4～6	授業・授業準備

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

ネット支援プライマリープログラム（小学校向け）

サービス活用後アンケート結果（n=15）



児童がデジタル社会の課題について自ら考えたり、判断したりする意欲・態度については**57%**の学校が、児童のインターネットモラルに関する知識やトラブル回避の意識については**67%**の学校が改善されたと感じています。また、教員の負担については**66%**の学校が軽減されたと感じています。

定性的効果検証

ネット支援プライマリープログラム（小学校向け）

アンケート自由記述欄から、児童の意識変容や教材の利便性について以下の具体的なポジティブな変化が確認できた。

① 児童の意識・行動の変容（「自分事」化）

- SNSの危険性やLINEの使い方、個人情報の扱いについて「自分事」として捉え、自制しようとする姿が見られた。
- ネット依存やゲーム依存の動画を通じ、自身の生活（動画視聴時間やゲームのやりすぎ）を改めたいと考える児童が増えた。
- 学習を通じて、使い方やルールについて家族で話し合うきっかけが生まれた。

② 教材の有用性と指導の質向上

- 1本5分程度の短いホワイトボードアニメーションにより、児童が最後まで集中を切らさずに取り組めた
- 実際に起こりうる具体的な場面設定により、専門的な内容も子供たちが理解しやすく、活発な議論や振り返りに繋がった。
- 豊富なテーマから児童の実態に合わせて必要な箇所を選択できる点や、ワークシートとセットで取り組みやすい点が評価された。

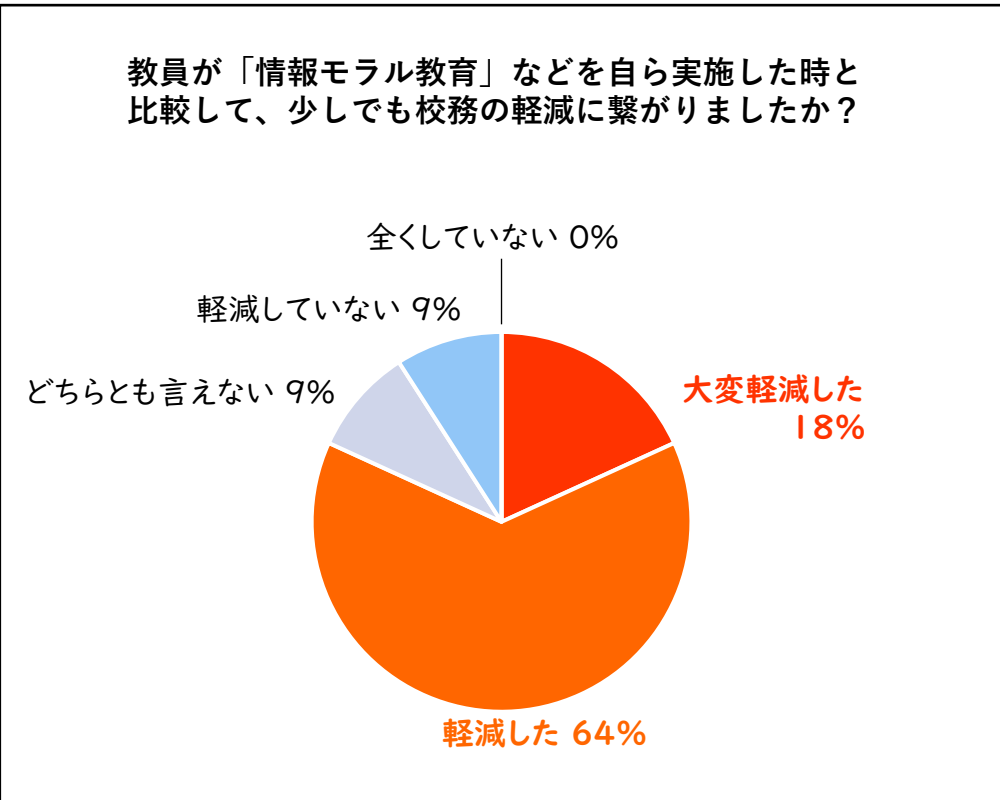
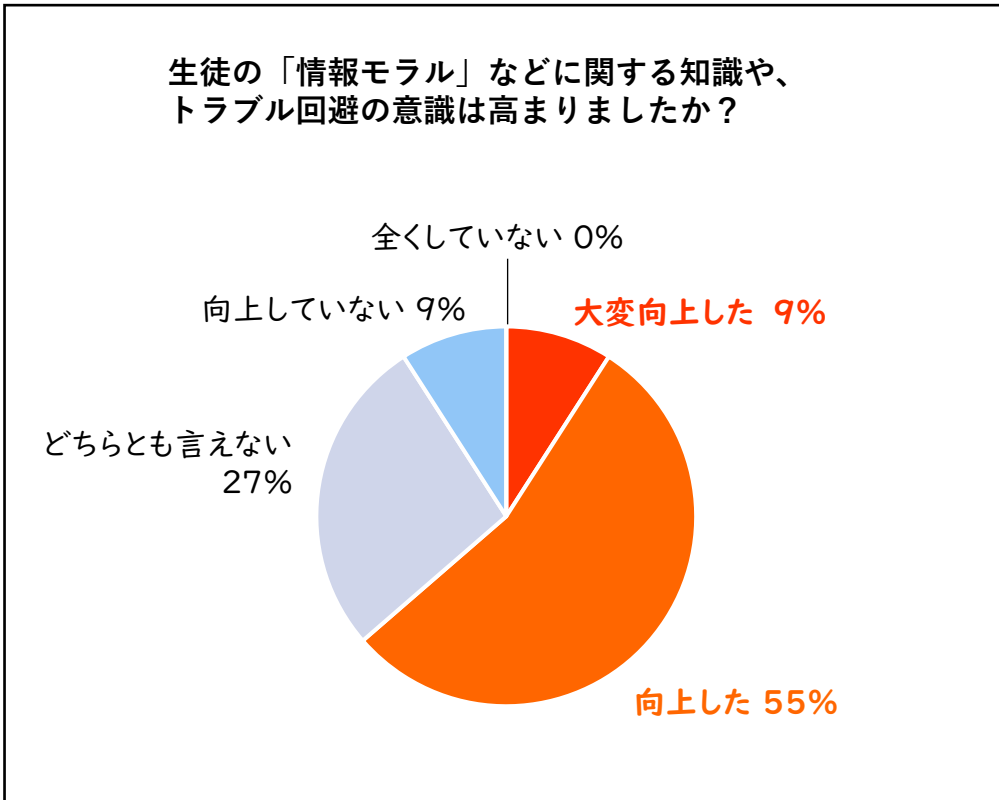
③ 教員の指導環境の改善

- 専門的な内容が動画にまとめられているため、教員に高度な専門知識がなくても質の高い指導が可能になった。
- 授業時間だけでなく、朝の学習時間（ショートホームルーム）や家庭学習、長期休暇の宿題など、学校の実情に合わせた多様な形態で活用された。

定量的効果検証

「ネット依存トラブル対策プログラム」（中学・高校向け）

サービス活用後アンケート結果（n=11）



生徒の情報モラルなどに関する知識やトラブル回避の意識については**64%**の学校が改善されたと感じています。
また、教員の校務負担については**82%**の学校が軽減されたと感じています。

定性的効果検証

「ネット依存トラブル対策プログラム」（中学・高校向け）

アンケート自由記述欄から、児童の意識変容や教材の利便性について以下の具体的なポジティブな変化が確認できた。

① 生徒の「自己客観化」と「危機意識」の向上

- 自分の状況を客観的に見取することで「改善ポイントをピンポイントで考える」といった自発的な変化が見られた。
- 外部専門家のアドバイスの方が生徒は素直に耳を傾け、真剣に受け止める傾向があった。

② 生徒指導における「共通言語」と「エビデンス」の確保

- 「見えないネット上の交友関係」を把握することで個別指導に役立てたり、依存傾向が高い生徒を事前に把握して注意喚起を行うなど、具体的な指導の指針（コンパス）として機能した。
- トラブル発生時に「事前に対策講座を実施していた」という指導実績を主張できる点は、学校組織を守る上でも大きな利点となっています。
- 携帯電話利用に関する校則やルール作りを行う際の、客観的な背景データとして活用できた。

③ 三者連携（学校・生徒・家庭）の促進

- 「親子の認識差」が数値化されることで、家庭を巻き込んだ指導が容易になった。
- 学校単独では難しい「家庭でのしつけ」に対し、専門家の動画やデータを介することで、角を立てずに介入できる点が高く評価された。

④ 教育現場の「心理的・物理的負担」の解消

- 質の高い教材が提供されることで、教員が自信を持って指導に当たれる環境が整った。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

ネット支援プライマリープログラム（小学校向け）

授業後の児童の反応や感想、変容が見られた具体的なエピソード

- 個人情報やなぜネットに書いてはいけないのか、どのようにネットと関わっていけばよいのかわかったという児童の声が多くあり、これから授業でインターネットを使うときも気を付けるという声があった。
- LINEの使い方を考えるきっかけになった。ネット依存やゲーム依存について、自身の生活を改めたいと考える児童が増えた。長期休業中の自身の動画視聴時間を考えるきっかけになった。
- 日常に起こった事例と照らし合わせることで、普段のケータイの使い方を考えている振り返りがみられた。

先生方から見た本プログラムの利点

- 専門的な内容を子どもたちが分かりやすいように、短い時間で動画にまとめてくれているため、子どもたちも集中して学び理解を深めていくことができた。
- 動画内容が理解しやすかった。実際に起こりうる場面の動画だったので、児童が自分事として考えやすかった。様々な具体的な場面から、インターネット、SNSなどの使い方について考えることができた。
- 多くの事例や動画があって教材が豊富でした。
- 事例が具体的で児童に合っていたので、自分事として捉えることがしやすかった。

ネット依存対策プログラム（中学・高校向け）

生徒の様子や反応に関するコメント

- 「生徒自らが自分の状況を客観的に見取ることで、改善ポイントなどをピンポイントで考え、改善に役立てられた。」
- 「結果を見た生徒本人が『やばい』と思ってくれた」
- 専門家によるアドバイスのほうが素直に耳を傾けて、真剣に受け止められているように感じる。」
- 「今後自分の置かれている状態を把握しネット活用について考える機会となる気がしています。」

先生方から見た本プログラムの利点

- 「私たちが見えないネットでの交友関係を探り、個別指導に役立てられたことがありました。」
- 「気になる生徒の客観的なデータを得ることで、生徒指導のアプローチとして有効でした。」
- 「依存傾向を把握した上で注意喚起を行ったり、SNSの利用や危険性についての情報を生徒や保護者に向けて伝えた際に、理解を深められやすくなった。」
- 「教員でもなく、親でもない立場から、話をしてもらうのはとても良いことだと思います。そこから教員・親とのかかわり方を模索できる。」
- 「教員ではなかなか準備できないレベルの講座資料でお願いして本当に良かったと思います。」

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

ネット支援プライマリープログラム(小学校向け):導入の案内・実施時間の短縮・予算策の強化で、導入と運用のハードルを解消する。

ネット依存対策プログラム(中学・高校向け):年間計画と柔軟なスケジュールの提示、継続意欲を高める内容と価格設定の提案をする。

直面した課題

ネット支援プライマリープログラム(小学校向け)

①導入時の課題

教材(冊子)は配送し、教師用ポータルサイトの案内はメールだったため、導入時点で授業ガイドの存在が十分伝わらなかったことが課題でした。

②実施していく中での課題

学校の授業スケジュールが決まっている中で柔軟に活用いただくための活用法の周知が課題でした。

③実施した結果、新たに顕在化した課題

次年度以降の継続を促すためのプラン(価格設定など)が課題です。

ネット依存対策プログラム(中学・高校向け)

①導入時の課題

プログラム全体を理解していただくことが課題でした。
教育委員会からの承認を短期間で得ることに難しい面があります。例えば、学校が設置したくても、教育委員会へ説明し、承認を得るための日数が必要です。

②実施していく中での課題

短期間のスケジュールで準備する必要性がありました。
学校のスケジュールが決まっている中で実施するのは大変でした。

③実施した結果、新たに顕在化した課題

次年度以降の予算を確保していただくことが課題です。

解決するための改善策

ネット支援プライマリープログラム

①導入時の課題

導入時に教材(冊子)と共に活用ガイド、教師用ポータルサイトのログイン案内について印刷物で提供するようにします。

②実施していく中での課題

既存の授業と組み合わせ活用する方法の提案を行なうようにします。
また組み合わせやすい短い動画を充実するように内容を拡充します。

③実施した結果、新たに顕在化した課題

継続する価値があると感じていただけるように費用対効果を高めると共に、動画の種類や教材(冊子)の有無など予算に合わせたオプションを提供します。

ネット依存対策プログラム

①導入時の課題

事前にスケジュールや工程を明確にするように改善します。
教育委員会にも補助金の趣旨や目的が伝わるようなアプローチを検討します。
保護者が負担するプログラムの場合は、学校単位で申し込めると助かります。

②実施していく中での課題

より簡便な登録プロセスの提供ができるように改善します。
柔軟に行えるようなプログラムも検討します。

③実施した結果、新たに顕在化した課題

継続する価値があり、費用対効果を高めるプログラムを提供します。

■会社概要

社名	一般社団法人 青少年ネット教育アカデミー
代表	杉山 岳
設立年月	2019年9月
本社	静岡県静岡市駿河区みずほ3-3-18 伏見ビル2F
資本金等	—
売上高等	2000万円
従業員数	8人
事業内容	当団体では、主に下記の内容の活動を展開しています。 ①年々、深刻度が増している子どもたちの「ネット依存」予防教育プログラムの提供。 ②「ネット依存傾向解析テスト」による傾向解析。 ③各種学校対象の情報モラル教育講座の開催。 ④一般市民や企業対象の多様な講座の提供。 例:「ヒューマンリテラシー(コミュニケーション力やシンキング力)」を向上させる教育講座

■お問い合わせ窓口

担当:後藤隆則

電話:054-259-3181

Mail:info@net-ed.org